

これから出荷のリンゴ「王林」と「ふじ」の目合わせに参加しました。  
 毎年リンゴの出荷が始まる前に、生産者と組合員代表、生協担当者が産地に出向いて、出荷前のリンゴを前にお互いが納得できるように出荷基準を決めています。それを「目合わせ」と言います。  
 リンゴは種類に応じて出荷時期が異なるため、早生種、中生種、晩生種の毎年3回行われます。

リンゴ生産者「八ヶ岳会」のリンゴ畑は、長野県長野市の千曲川の河川敷辺りから標高500mほどの山に広がっています。



手前が「ふじ」、奥が「王林」

ちょうど一週間前の台風21号の暴風と豪雨で、千曲川河川敷の畑では、たわわに実ったリンゴの木が2メートルほどの高さまで水に浸かってしまいました。水は引きましたが浸水したリンゴは出荷できません。しかし、私たちが予約したリンゴの量は確保できるとのことです。たくさん食べて生産者を応援したいと思います。

今年の作柄は概ね良好。開花は4/30頃ではほぼ平年並み。梅雨明け以降8月までは雨が多く日照不足だったが、果実の大きさはほぼ平年並み。病気の発生は昨年より減り、出荷量には影響なしです。

**【出荷できないリンゴ】**



王林●炭疽病（まだ小さい幼果の内に感染し、出荷時期に広がってしまった）



ふじ●バツがついているのはサビ果（春先に霜にあたったことが原因）

●右端は枝に当たり、キズが中までひびいている。



ふじ

- 左は炭疽病の斑点が見られる。
- 中央は変形が強すぎる。
- 右は鳥につつかれたようです。



シナノスイート

- 黒星病（今年は少なかった）

すでに目合わせを経て出荷基準をクリアしたシナノスイートの出荷準備をする生産者の峰村さん。



最後に目視でキズや病気がないかチェック。

大きさに合わせて5kgなるように紙トレーに入れていく。



出荷前の作業は夜中まで続きます。真冬のふじの出荷時には作業場は氷点下になります  
が頑張ります！(^^)!





出荷日には各生産者が決まった集荷場所まで運び、  
運送会社の大型トラックへ積み込みます。

大型トラックへの積み込みも全員で協力します。



### 《ハケタ会りんごの特徴》

★りんごの栽培は土づくりを大切にしています。

有機肥料を中心に栽培しています。

除草剤は使用せず、農薬はできる限り減らしています。環境ホルモンの疑いがある農薬は不使用です。

★適熟出荷です（もっともおいしい時期にお届けします）

生活クラブのりんごはシーズン予約で事前に注文します。

前もって注文数が分かるため、美味しい時期まで待って収穫できるのです。

★無袋栽培です

ハケタ会では、見栄えを良くするための袋はかけません。

日光を十分浴び、見栄えより味を追求しています。

★りんごを出荷する前に『目合わせ』をします

生産者と生協の担当者・組合員代表が毎年産地に出向き、その年のそれぞれの品種のりんごを前にして、お互いに納得できるように出荷基準を決めています。

★りんごには生産者カードが付き、どの生産者のりんごかわかります。

カードにはりんごの評価や生産者へのメッセージを記入し、生産者へ返します。（生産者はカードの集計結果を見て反省会に臨みます）

ハケタ会のりんごを食べたことがない組合員の方は、一度、市販のりんごと食べ比べてみてください。きっと美味しさの違いが分かっていただけだと思います。

りんごなどの果物は病気になりやすく、木には害虫がつきやすく、何十年も実をつけ続ける果樹には多くの農薬が使われるのが一般的です。りんごは皮と実の間に一番栄養があり、我が家ではりんごは皮をむきません。ハケタ会のりんごは農薬をできる限り減らした減農薬栽培なので安心して皮ごと食べています。

ふじは来年2月頃まで続きます。生産者に安心安全なりんごを作り続けてもらえるように、組合員みんなで食べて続けていきましょう。